

「ウォルト・ディズニーが気づいたこと」

生徒の皆さん、おはようございます。校長の博田です。先日の卒業式は、新型コロナウイルス感染症の影響で時間的にも内容的にも制限された形での実施となりましたが、大変よい式になりました。3年生はこの3年間の高校生活を思い出しながら、またすべての人たちに感謝をしながら、松が谷高校という学び舎から旅立っていきました。大変嬉しく思います。

さて、今日は修了式です。修了の「しゅう」という字は、いとへの終わりではなく、にんべんに縦に一本線を引いた「ものごとを修める」という意味で、修学旅行の「修」です。皆さんが1年間の学習を終えたということを確認し、というのが修了式です。この大事な修了式を気持ちよく迎えるにあたり、昨日まで皆さんは一生懸命大掃除をしてくださいました。この掃除（周囲をきれいにする）ということをテーマに、今日はお話しをしたいと思います。

ほとんどの皆さんは、東京ディズニーランドや東京ディズニーシーに行ったことがあると思います。今日お話しするのは、アメリカに初めてディズニーランドができた時の話です。ディズニーランドを作ったウォルト・ディズニーは、今から120年前の1901年、アメリカ合衆国のシカゴで生まれました。アニメーター、映画監督として活躍し、皆さんよくご存じの世界的に有名なアニメーションキャラクター「ミッキー・マウス」の生みの親です。そのウォルト・ディズニーはカリフォルニア州のアナハイムに自分の名前を付けたテーマパーク、ディズニーランドを開設しましたが、悩み事がありました。ディズニーランドを訪れる何十万人もの入場者が散らかすゴミを、どうしたらよいかということに頭を痛めていたのです。毎日いろいろな方法を試してみたのですが、なかなかうまくいきません。

そんなある日、ウォルト・ディズニーは、一か所だけゴミがない場所があるのを発見しました。「なぜだろう。なぜこの場所だけゴミが落ちていないのだろう」と考えていたら、その場所がピカピカに磨かれていて、とてもきれいな場所だということに気がつきました。彼は、「そうか、ちり一つない美しい床にゴミを捨てたり、唾を吐いたりすることは誰もがためらうはずだ」と思い、人間の「ためらいの心」に訴えればよいのではないかと、ということに気がついたのです。そこで、ディズニーランドがオープンした朝のきれいな状態をずっと保つために、まずきれいにデザインされたゴミ箱をたくさん置きました。そして、掃除係の人のほかに、社員はもちろん、動物のぬいぐるみに入ったアルバイトの人たちなどにも、目についたゴミを拾ってもらうことを徹底してやったのです。最初は、お客さんが捨てれば、すぐに誰かが拾う、また捨てれば拾う、の繰り返しでした。そのうちにいつのまにかゴミは一つも落ちていない美しい場所になったということです。皆さんが行ったことがある東京ディズニーランドやディズニーシーを思い出してみてください。私も若い頃、カリフォルニア・アナハイムのディズニーランドを訪れた際、そのきれいさに驚いてしまいました。

皆さんには、人間のこの「ためらいの心」に訴えたウォルト・ディズニーの発想の素晴らしさや、ディズニーランドは夢の国なのだから、お客さんには美しい場所で楽しんでほしいという気持ちを考えてほしいと思います。この松が谷高校はどうでしょうか。皆さんが教室で勉強している間に、皆さんに気持ちよく勉強してもらおうと、主事さんたちが廊下、階段、生徒昇降口、グラウンドなど、少ない人数で毎日一生懸命掃除をしてくれています。ですから、皆さんも昨日までのような大掃除の時はもちろん、毎日の掃除の時間にも心をこめて掃除をしましょう。皆さんが今まで使った教室は、あと数日後には、次の学年の人が使うようになります。これから次に使う人たちが気持ちよく勉強できるように掃除したり、自分が出したゴミでなくても、ゴミが校内に落ちていたら、ディズニーランドのように気がついた人がすぐに拾ってくれると、学校はもっとピカピカの美しい学校になると思います。

最後になりましたが、今日私がお話しした、使う人の気持ちを考え、校内外の環境の美化に努め、皆さんには4月からの学校生活を気持ちよく過ごしてほしいと願っています。それでは、明日からの春休みを有意義に過ごされるよう期待して、私の話を終わります。

令和3年3月25日

都立松が谷高等学校長 博田 英明